

第 16 回千葉県水道局中期経営計画事業等評価委員会指摘事項（会議録からの抜粋）

分類	番号	ご指摘事項	対応資料
需要予測	1	<ul style="list-style-type: none"> ■ 平成 21 年度に急激にカーブが上昇しているが現実的か・・・（委員事前質問、会議録 11 ページ） ■ 資料 3 の図 2 で平成 20 年度実績から平成 21 年度予測の線形が飛び跳ねたようになっており、もう少し丁寧な説明をされたほうがよいという印象を受けました。（会議録 17 ページ） 	資料 1 参考資料 1-1
	2	<ul style="list-style-type: none"> ■ 最新の情報とはいつのものなのか・・・（委員事前質問、会議録 10 ページ） ■ 平成 18 年度までの実績を使うことについて、過去の実績の延長線で無理はないのか、・・・（委員事前質問、会議録 10 ページ） ■ 平成 36 年度のピーク時の計算根拠・・・（委員事前質問、会議録 11 ページ） 	参考資料 1-2 参考資料 1-9
	3	<ul style="list-style-type: none"> ■ 安全率を考慮して負荷率の最低値を用いることはおかしいことではないのですが、負荷率の設定で一日最大給水量が大きく変動しますから、説明は必要だと思います。（会議録 17 ページ） 	参考資料 1-3
	4	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人口減少が続いているのではないかと、それなのに給水人口が平成 36 年度に 302 万人と、今 290 万人くらいで 4%増加すると予測していることに無理はないのか・・・（委員事前質問、会議録 10 ページ） ■ 将来人口推計については、基本的にはそのような一般的に使用されている手法というのは、あり得ると思いますが、その時にどのような人口要因を使用されたか、・・・（会議録 18 ページ） 	参考資料 1-4
	5	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人口が増えているというのは、自然増なのか、他所から移動してきているのか、移動が遠くから移動しているのか、比較的近場から移動している周りの地域では水が余っているのか・・・（会議録 13 ページ） ■ 出入りがどのくらいの範囲で起きているのか、場合によっては、広域化により相互融通を図った場合に間に合うのではないかと、その辺の検証を踏まえて検討されたものなのかということが、ひとつの判断としてはあると思います。（会議録 13 ページ） 	参考資料 1-5
	6	<ul style="list-style-type: none"> ■ 恐らく、全体的な傾向からすると生活用原単位は、減ることはあっても増える可能性は少ないんじゃないかということ、一般的な理解じゃないかと思うのですが、こういうことで、はっきりと数字がある以上、一人一日あたりの数字が上がってくるということが具体的に示されると、その疑問が当然起きてきますから、それを十分に説明いただくことになると思います。（会議録 16 ページ） ■ 総務省の勧告では、実は、予測手法についての記述もありますので、いろいろな予測手法が複数あって、それによって予測した時の結果数値が変わってくる時には、どの予測手法を用いることが最も客観妥当性があるのかという、評価が当然あり得ることになりますので、そのへんの説明をされたほうがよいと思います。どういう予測手法を用いて他と比べてそれが妥当なのかどうか、説明する上で必要になる可能性があります。（会議録 18 ページ） ■ 給水量自体の推計をする時に原単位の算定の計算根拠で、いろいろ先ほどご指摘をいただいたわけですが、それは、どちらかといえば、使用目的別のそれぞれの傾向分析的なところがあるかと思うのですが、それは幾つかあるうちの 1 つの手法だと思うのです。ですので、いろいろなものがあつた上で、当評価委員会がどの手法を用いて、それが他の手法と比較した時に客観妥当性をどのように評価するのかということは、元々そういう意味で、需要予測自体の精度を高めると、先ほど申し上げた総務省の指摘勧告の一項目ですから、ですので、そういうことが求められると説明せざるを得なくなるということだと思います。（会議録 18 ページ） 	参考資料 1-6
	7	<ul style="list-style-type: none"> ■ 他県は、どのくらいで、上がっているのですか、横ばいですか、下がっているのですか。（会議録 16 ページ） 	参考資料 1-7
	8	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高齢化による増加要因、高齢化することで使用量が増えると推計しているのですが、これに対して高齢者は自炊よりも仕出しに向かったり、養護施設に入ったりで逆に減少要因にならないのか・・・（委員事前質問、会議録 10 ページ） 	参考資料 1-8

取水可能量	1	<ul style="list-style-type: none"> ■ 湯西川ダムを含めると 124 万 m³ になり H36 での最大給水量 113 万 m³ より約 10%多く過剰にならないか。(委員事前質問) ■ 資料 3 の 4 ページ目に安定水源の取水可能量は約 124 万 m³/日という記述がありますが、この内訳というのは、ありますか。(会議録 19 ページ) ■ ハッ場ダムがあることによって安定している水源がどのくらいあるのかということなんですが、・・・(会議録 19 ページ) ■ 単に一日最大給水量と比べるのではなく、渇水時の対策というところで、議論をするのだと思うのですが、その時に各水源の渇水時の供給能力がどれだけ下がるのかというデータが当然あるわけですね。そのうえで議論されているのだと思うのですが、その部分がなくて分かりにくいなと思います。(会議録 20 ページ) ■ 通常時は、約 124 万 m³/日のうちの 12 万 m³/日ですが、渇水時の約 106 万 m³/日のうちだとどうなるのでしょうか。影響を受けやすいのでしょうか。(会議録 20 ページ) 	資料 2
	2	<ul style="list-style-type: none"> ■ 実績としては、こんなに制限は毎年ないのではないですか。(会議録 23 ページ) 	参考資料 2-1
費用対便益	1	<ul style="list-style-type: none"> ■ ハッ場ダムがある場合とない場合でどういう影響があるということが明確に書いてあると分かりやすいのではないかと思います。最後のほうの渇水被害の計算は、ハッ場ダムがある場合とない場合の差という理解でよろしいでしょうか。(会議録 7 ページ) ■ 単純に便益が被害額と書いてあるのですが、被害が軽減されるという意味ですね。説明では分かったのですが、読んだ時に、ハッ場ダムがあることで受益が発生した部分という説明があるといいと思いました。(会議録 7 ページ) ■ 渇水を免れる年がどのくらいに増えるかというのは、計算できるのですか。(会議録 20 ページ) ■ 資料 4 で教えていただきたいのですが、業務営業用被害額が 421 億円ということで、この被害額というのは、そもそも渇水があった場合にどのくらいの水が給水制限されるかということで計算されたということで考えてよろしいですか。(会議録 22 ページ) ■ 平均で結構なのですが、どのくらいが制限され、平均何日になりますか。(会議録 23 ページ) 	資料 3
	2	<ul style="list-style-type: none"> ■ 業務・営業用水被害額 421 億円がどういうものなのか説明してください。(委員事前質問) ■ 業務営業被害額のご説明を一通りしていただいたのですが、給水している区域としていない区域の区別はされているのですか。(会議録 25 ページ) 	参考資料 3-1
			参考資料 3-2